プロテアーゼ

プロテアーゼ ぷろてあーぜ

protease　プロテアーゼは、ペプチド結合（−CO−NH−） の加水分解を触媒する酵素の総称で、プロテイナーゼ （proteinase） とペプチダーゼ （peptidase） とに分けらる。プロテイナーゼは、蛋白質分子のペプチド結合を加水分解する酵素で、エンドペプチダーゼ（endopeptidase） ともいわれ、高分子蛋白に作用すると急速な低分子化が起こり、蛋白はペプトン化する。ペプチダーゼはペプチド鎖のアミノ末端あるいはカルボキシ末端のペプチド結合を加水分解する酵素で、エキソペプチダーゼ（exopeptidase） ともいわれ、ペプチド鎖の末端から順次アミノ酸を遊離させる。プロテアーゼは活性構造から次の４群に分類される：アスパルティックプロテイナーゼ、 金属プロテイナーゼ、 セリンプロテイナーゼ、 チオールプロテイナーゼ。プロテアーゼの一種であるカスパーゼは、アポトーシス（細胞死）の際に活性化されることが知られている。

＜登録年月＞
2006年11月